

研究大学強化促進事業に関する意見書の取りまとめ

A:優れている

B:良好である

C:不十分である

1. RU事業(2020年度)の活動について

評価内容	評価	評価者氏名	コメント
(1)計画に沿った活動状況であるかについて	A	評価者：A	将来構想を達成するための12の達成目標などをきちんと設定し、着実に実現。 ほとんどの活動項目で設定目標を上回る成果を上げている。
	A	評価者：B	5つの将来構想(目標)を立てて、その実現に向けて12の合理的で実行可能な取り組みが行われてきた。
	A	評価者：C	十分よく考えられた計画であり、また、それに沿った取り組みがなされている点、感銘を受けました。
	A	評価者：D	計画に沿った、あるいは計画以上の進捗が見られる。
	A	評価者：E	将来構想に従って達成目標が設定されており、計画に沿った活動が行われている。
(2)事業活動の進捗状況について(全般的評価)	A	評価者：A	全学IRシステムやIR室の整備、領域特化大学としての指定国立大学指定、女性・若手の科研費獲得の活躍、トップサイエンスインキュベータ構想の立ち上げ、オープンイノベーションプロジェクト実績の着実な増加、PMDAとの包括連携協定の締結、医療系URAスキル標準作成の取組など、幅広く着実な進捗をしているといえる。
	A	評価者：B	概ね良好であった。 一部(例えば、ライフコンソーシアムの成果、若手研究者育成のメンター制度など)について、やや不明な点があった。
	A	評価者：C	様々なことに、しかも丁寧に取り組んでおり、そのために十分な成果も出ていると思います。個人的には、QSやTHEのランキングにとらわれる必要はないと思います。単に研究力だけの指標ではないので。より健全な指標(ベンチマーク大学との比較)を考えられた方がよい場合もあると思います。
	A	評価者：D	計画に沿った、あるいは計画以上の進捗が見られる。
	A	評価者：E	今まで手を打ってきた様々な施策が順調に進んで、成果が表れている。

(3) 評価(外部評価・自己評価)に基づいた改善がなされているかについて	A	評価者：A	歯学系研究力強化、臨床研究強化への取組が順調に進捗。統合情報 IR 室の設置、女性上位職登用制度の創設なども外部評価指摘をきちんと反映したものといえる。
	A	評価者：B	外部評価委員のコメントに従って、改善に向けた努力が行われてきた。特に、かねてから懸念が示されていた歯学系の科研費の採択率の向上は特記に値する（しかし、数年間に渡る向上の継続性を見たい）。また、敢えて言うなら、2020 の採択率 32.4% は国立大学の中では高くない。 「統合 XX 機構」が多くあり、関連性が分かり難いというコメントがあったが、学内の教員・研究者は分かっているのでしょうか？あるいは分かっているけれども良いのでしょうか？
	A	評価者：C	改善の努力はよくわかりました。たとえば、統合イノベーション推進機構のように、組織・体制を整理されて、よりわかりやすくなったと思います。ただし、まだもう少し組織や体制の整理は必要だと思います。とくに、将来を見据えて、組織の（取り組みではなく、あくまで組織の）スクラップ&ビルドをされるとよいと思います。
	A	評価者：D	歯学部の研究の活性化、臨床研究の強化などの外部評価委員の昨年コメントへ適切に対応している。
	A	評価者：E	歯学部研究活性化、女性研究者育成など新たな試みを進めており、外部評価・自己評価に基づいた改善がなされている。

2. URAについて

評価	評価者氏名	コメント
A	評価者：A	医療系 URA モデルに則った人事体系に基づいて、URA の評価・昇進を実施しており、URA 全体のモチベーションアップにもつながっていると期待される。
A	評価者：B	URA 職員の階層、人数割当、仕事の役割分担、プロモーションの仕組みなど適切。有機的に繋がって、多様な新規プログラムを考えている。
A	評価者：C	モデル校として、適正人数分析や人件費の原資の見積もり・妥当性について検討し、お示し頂ければと思います。
A	評価者：D	様々な学内委員会、協議会などが数多く存在し、相互の関係が判りにくくなっており、もう少し整理すべきかと思う。
A	評価者：E	人事評価制度の構築により人材の充実化が図られ、各ブランチにおいて活発な活動が展開されている。

3. URAの活動について

評価内容	評価	評価者氏名	コメント
(1)大型研究展開 ブランチ(研究費 獲得ブランチ)の 活動・実績につい て	A	評価者：A	オープンイノベーション機構設立とも相まって、2020 年度キャノンなど 2 社、2021 年度 3 団体と大型連携協定締結の方向。産業界との連携増大は重要な成果。
	A	評価者：B	本ブランチについては、具体的な成果を聞き忘れたし、資料からも上手く読み取れなかった。しかし、学術論文、国際共著論文、産学共著論文の数の増加に活動の成果が現れているのだと思うし、また O I 機構の積極的な活動とも繋がっていると思って評価した。
	A	評価者：C	OI 機構との統合をどのように進めるのか、私どもの先を走る先輩プロジェクトとして、その模範例を見せて頂けることを期待しています。 外部評価委員のコメントとしては不適切かもしれませんが、医療機器開発を目指した共同研究については、是非、本学と一緒に進めさせて頂きたい。
	B	評価者：D	順調ではあるが、若干の頭打ちはある様である。OI が獲得できた点は、評価できる。
	A	評価者：E	組織対組織の産学連携が進んでおり、大きな成果である。産学連携による獲得研究費及びその伸びも示されると、さらに効果的である。URA 事業終了後も現在の URA スタッフの雇用を維持・継続可能とのことは大変心強い。

(2)研究強化ブランチの活動・実績について	A	評価者：A	科研費・AMEDの申請・採択数は全国平均より高い値なるもやや頭打ち感がある。その克服に向け、ターゲットを絞った呼び掛け始め具体的な工夫があるとよい。
	A	評価者：B	学術論文、国際共著論文、産学共著論文の数の増加に活動の成果が現れているのだと思う。また、申請書支援による採択率の向上が著明である。若手や女性の採択率が高いのも成果の一端であろう。
	A	評価者：C	科研費の獲得支援では丁寧な取り組みをされており、それが成果につながっていると感じました。今後は、研究者チームを編成し、より大型の予算を獲得するような取り組みへの支援にも期待しています。
	A	評価者：D	順調に論文業績が上がっている。
	A	評価者：E	急に大きな変化は難しい領域であるが若手研究者のAMED研究費や科研費獲得率向上に寄与している。新学術領域、基盤S、CREST、ムーンショットなどの大型研究費の獲得率向上を今後期待したい。
(3)先進医療展開ブランチの活動・実績について	A	評価者：A	臨床研究・治験の管理・ワンストップ支援に加え、臨床研究のための研究者育成が、論文実績とも相まって順調。特定臨床研究もコロナ禍中において12月末まで9件(目標15件)、コロナ関連研究の集中支援に取り組むなどよく対応したといえる。
	A	評価者：B	臨床研究(観察・介入)推進のための教育プログラム作成とその実行により、成果として学術論文の増加に繋がっている。また、本ブランチの支援による医師主導型治験が今年度新規に1件の実行に繋がっている。但し、頂いた資料の一部(16枚目)「今回募集」とあるのが2018年度分であった。既に過ぎた年については、目標ではなく実績を書いて欲しかった。
	A	評価者：C	臨床研究推進という難しい分野の支援を着実に進められている点に感心しました。後継の育成が重要だと思います。
	B	評価者：D	多施設共同研究などの実施をもっと積極的に行って欲しい。
	A	評価者：E	ほぼ計画通り臨床研究が実施され、また臨床研究推進のためのコースを開設しており、治験の増加、臨床研究論文の増加が期待できる。

4. 広報活動について

評価	評価者氏名	コメント
A	評価者：A	英文 PR の増加、SNS フォロワーの大幅増加は、総論文数や国際共著論文数・産学共著論文数の増加と相まって、貴学の国際的アピールにつながっていると評価できる。
A	評価者：B	研究活動の英語版の出版・配布や積極的な研究成果のリリースが見られ、国内外への認知度が上がっていると思う。英語による動画配信も結構。SNS のフォロワー数の増加に期待したい。
B	評価者：C	東京医科歯科大学が TMDU の認知度がまだまだ低いのが残念です。
A	評価者：D	広報担当教授を起用し、活発に活動している。
A	評価者：E	国内企業などへのアピールなど活発に行われており、包括連携などにつながっている。世界大学ランキング向上のためには海外へのアピールをさらに強化する必要があるように思われる。

5. 研究者情報・IRについて

評価	評価者氏名	コメント
A	評価者：A	全学 IR システム構築と IR 室設置により、体制が充実した。
A	評価者：B	昨年度は具体的な利用方法のイメージがなかったが、今年度の資料から歯学系の科研費の申請・採択状況の個別情報とそれを利用した申請の指示（要請？）などに利用されているのが分かった。
B	評価者：C	IR がどのように活用されているのか、今回の説明ではよくわかりませんでした。（質問すべきだったです。失礼しました。）
A	評価者：D	計画に沿った、あるいは計画以上の進捗が見られる。
B	評価者：E	今回の報告ではあまり研究者情報の活用は示されなかったと思うが、研究者の研究分野や実績の確認のほか URA の活動にリンクする場合にはアピールしたほうが良いと考える。

6. その他、お気づきの点

評価者氏名	コメント
評価者：A	<p>1. 医療系領域特化大学として、体制整備・人材育成から研究・産学連携活動まで幅広く取組を実施し、研究成果も順調に向上。にもかかわらず、「世界大学ランキング」では相対的に少しずつランクを落としている傾向。IR 活動を通じて明示的に海外の好敵手大学を認知しベンチマークすることにより、世界に伍して本格的に競争できる大学の基盤を作してほしい。</p> <p>2. 取組が極めて多いが、事業終了後に「継続する」との説明が多く感銘を受けた。是非、個々の事業活動への研究力強化事業の貢献状況(資金・人材等)と、事業終了時の各活動の持続可能性の見込み(どう資金・人材手当とするのか)、あるいは全体的な指揮命令系統等をどう維持・整理するのか等をうまく見せる化して、他大学にとってのロールモデルを明確に示してほしい。</p> <p>3. 同様の他大学との間での連携(人材交流や取組の相互融通)に関しても、他大学と話し合い、是非事例構築してほしい。</p>
評価者：B	<p>将来的に求めるべきものを設定し、正確な現状分析に基づいて具体的な方策を策定している。素晴らしいと思う。取り組みの全てが、おそらく医科歯科大学なら、医科歯科大学だから実現可能で希望が持てるので期待したい。</p> <p>会議当日にも触れたが、科研費の申請書は早めに書いて、読み直しながら完成させていく程、良い(採択可能になる)申請書が出来る(と確信している)から、不採択者には5月、遅くとも7月には申請書の作成を促して大学としても本気度を示した方が良いと思う。</p> <p>若手研究者育成のためのメンター制度を上手く作り上げて欲しい。高等研究院の3名の著名な先生方に加えて、その人のもとに若人が集まって切磋琢磨しながらお互いに伸びていく様な環境を醸し出すことのできる中堅のPIを選抜して大切にしたい。</p>
評価者：C	<p>基礎科学としての医学・歯学の進展が最も重要だと思います。今後とも是非その点を逸しないで様々な戦略を立てて頂ければと思います。</p> <p>・教員だけでなく、またURAだけでなく、技術職員やさらには事務職員も含めてチームで研究戦略を企画・実現することが重要な時代になってきたように思います。まずは、教員の方々のマインドをそのように変えていくことが重要かと思います。そのためには、成功例を示すことだと思います。</p>
評価者：D	<p>事業終了後の体制(予算・体制・人員など)について、もう少し具体的に報告いただきたい。</p> <p>世界の歯学部としての role Model となって欲しい。それに向けての Miles Stone を示して欲しい。</p>
評価者：E	<p>将来構想の実現及び目標達成のため様々な施策が提案され、現在行われているが、各施策を行った結果、その効果はどうだったのかという検証を行っていただき、次の仕組み、施策づくりにフィードバックしたほうが、より効果的に将来構想に近づけると考える。特に定量的に評価しにくい施策(若手育成、女性の活躍の場)など定量化指標をご検討いただきたい。</p>